

令和3年度のサマーフェアについて

濱谷修一・大下正勝

令和3年のサマーフェアの概要について記録する。

本事業は、下記の〈当初計画〉の内容で計画し準備を進めていた。しかしながら、後述の〈結果と振り返り〉の項で記した通り、新型コロナウイルス感染拡大の影響でいくつかのイベント等を中止した。

〈当初計画〉

期間

令和3年7月17日(土)～8月31日(火)

目的

主に夏休み期間中を中心に、夏の植物公園のイベントや植物の展示を総合的に行うことにより、入園者の増加を図る。

内容

○みつばちクイズラリー(特別企画展関連イベント)

期間中毎日、小学生以下(各日先着100人)を対象に実施。園内のポイントを回ってミツバチの好きな花を探してもらう。7月31日から8月31日にかけて開催する特別企画展「ミツバチと花の“おいしい”関係展」とのタイアップ企画。

○水遊び広場

期間中毎日、10:30～・11:00～・11:30～・13:30～・14:00～・14:30～の6回(各15分間)実施。イベント広場、芝生広場(実施場所は日替わり)にかん水チューブやパルス式スプリンクラー等の芝生散水器具等を使用して噴水広場をつくり、水遊びの楽しさを体感してもらう。

○親子植物体験教室

8月9日(月・祝)に実施。小学校1～3年生とその保護者を対象とし、花育体験や、園内の面白い植物についてクイズや体験を通して楽しく学習する。

○オオオニバス試乗体験会

8月11日(水)、14日(土)、15日(日)、17日(火)、事前申し込みで、各日200人の児童(小学生以下、体重30kgまで)を対象に実施。熱帯スイレン

温室にて、直径1m以上になるオオオニバスの葉に乗る体験会を行い、試乗者には証明書を渡す。

○夏の風物詩 ヒマワリの丘

7月下旬～8月下旬にかけて、園内で最も広い面積がある森のレストラン前の花壇に夏の風物詩であるヒマワリ(品種:サンフィニティ)を植え、群生を楽しんでもらう。

○期間中に開催する展示会など

①冬虫夏草展(瀬戸内虫草団となかまたち)

会期は6月21日(月)～7月25日(日)。昆虫やクモ、ダニ等に寄生して、おもしろい形や色をもつ子実体を形成する冬虫夏草を紹介。

②アリと生きる植物展

会期は7月17日(土)～8月1日(日)。植物体内にアリを住ませ共生しているアリ植物を、アリ等の小動物を栄養として利用する食虫植物の展示会とタイアップして企画展示し、植物と動物との微妙な関係を紹介する。7月25日(日)に講演会を実施。(世界の食虫植物展との同時開催)

③世界の食虫植物展

会期は7月17日(土)～8月15日(日)。ハエトリグサやウツボカズラなど世界の食虫植物を展示し、自生地の風景を写真で紹介。8月8日(日)に実演会(栽培や楽しみ方の解説)を実施。

④特別企画展「ミツバチと花の“おいしい”関係展」

会期は7月31日(土)～8月31日(火)。ミツバチの生態の紹介やミツバチが訪れる蜜を出す植物(蜜源植物)との関わりについて焦点を当てた企画展。7月31日(土)に講演会、8月3日(火)24日(火)にギャラリートークを実施。

⑤変化朝顔展

会期は8月21日(土)～8月29日(日)。珍しい変化咲きのアサガオを展示。8月22日(日)に展示解説を実施。

⑥うらら池よもやま話

7月17日(土)に実施。うらら池(園内のため池)や見頃の山野草をスライドで紹介。

⑦職員による植物うんちく語り

7月24日(土)、8月10日(火)、28日(土)に実施。職員が、園内の見ごろの植物などを解説。

⑧サガリバナと夜の植物の競演(夜間開園)[開園時間の延長]

8月21日(土)・28日(土)、9月4日(土)・11日(土)・18日(土)・19日(日)に実施。夜に咲くサガリバナやヨルガオなど、夜の幻想的な植物を紹介。

⑨みどりとむし講座「鳴く虫観賞会」

8月28日(土)に実施。夜間開園時にコオロギ等の鳴く虫やその声を観賞。

<結果と振り返り>

当年は8月2日から「広島県『新型コロナ感染拡大防止のための早期集中対策』を踏まえた本市主催イベント等の開催及び本市所管施設の臨時休館等の方針」が広島市から出されたため、みつばちクイズラリー、水遊び広場、講演会、ギャラリートーク、実演会、展示解説、よもやま話、うんちく語りは8月2日以降実施できなくなった。親子植物体験教室は開催を延期し(結局実施できなかった)、夜間開園は夜9時まで開園の予定を8時までに変更した。さらに、8月26日に「広島県『緊急事態措置』の実施に伴う新型コロナ感染拡大防止のための集中的な対策の強化」を踏まえた本市主催イベント等の開催及び本市所管施設の臨時休館等の方針の変更」が広島市から出されたため、8月26日以降は臨時休園となった。

また、オオオニバス試乗体験会は、14、15、17日に大雨による「避難指示」が当園所在地域に発令されたため、臨時休園となり、11日の1回しか実施できなかった。

これらの理由で、サマーフェア開催による集客効果の評価をすることは難しいが、実施できた範囲での気づきを記しておく。

展示会との連携

特別企画展「ミツバチと花の“おいしい”関係展」のほか、「冬虫夏草展(瀬戸内虫草団となかまたち)」、「アリと生きる植物展」、「世界の食虫植物展」、「変化朝顔展」をサマーフェア期間中に開催した。特に、「アリと生きる植物展」は本園では初開催で、アリ植物に詳しい伊藤彰洋氏に全面的に協力していただき、これまで本園で毎年開催してきた「世界の食虫植物展」と同時開催した。サマーフェア期間中に植物と動物(虫)の密接な関わりをテーマにした展示が多くあり、それぞれの展示は好評だった。一方で、それぞ

れを連動させて広報・実施することや、「この展示会をなぜサマーフェアで行っているのか」をPRすることが難しく、各展示会が単独で完結した感じになり、「サマーフェア」としての一体感に欠ける印象があった。

水遊び広場について

これは、以前「噴水迷路」として行っていた企画の後継企画である。夏のイベントとして噴水迷路は参加者に好評だったが、芝生に与えるダメージがあまりにも甚大だったために、水遊びの要素を残しつつ、できるだけ芝生を傷めにくい方法として、前年度からかん水チューブや動きのあるスプリンクラー等の芝生散水器具等を使って実施している。参加者の一部からは規模が小さくなったことを残念がる声が聞かれたが、実際に参加している方々の反応を見る限り、十分に楽しんでおられる様子がうかがえた。散水器具はその都度容易に移動できるため、芝生へのダメージは「噴水迷路」と比べれば間違いなく軽減されたが、それでも7月の2週間で芝生の所々が「危険な」状態になっていた。今年度は、8月2日以降にはイベントとして散水を行わなかったため芝生状態の悪化は止まったが、予定通りの期間実施していれば、ひどく芝生が傷んでしまった可能性がある。今年度は実施場所をローテーションして同じ場所を続けて使わないようにしたが、これだけでなく、芝生の状態を見ながら実施場所を制限する、1回あたりの時間を短くして水が溜まる時間を減らす等の対策を用意しておく必要がある。

オオオニバス試乗体験会について

オオオニバス試乗体験会は、一昨年までは、実施日(3~4日間)のうち1日だけを事前申込制とし、それ以外の実施日は当日申し込み(先着順)としていたが、前年はコロナウイルス対策として密な状況を生じさせないようにするため、全日程を事前申し込み(抽選)とした。本年度も同様としたところ、実施予定の4日とも、定員を上回る数の申し込みがあり、受付の業務量が激増した。その一方で、実施当日は混雑が著しく改善され、対応時の混乱もなかったため、本企画については今後も事前申込制主体で続けていきたい。

その他

ヒマワリの丘は季節を変えて同じ場所に植栽するネモフィラ、コスモスと同様に好評で、写真スポットとしてよく使われていた。新型コロナウイルス蔓延の影響があったと思うが、ヒマワリがマスコミ等に取り上げられる機会があまりなかったので、今後は、効果的な情報提供をするよう取り組まなければならない。

また、ハスの葉を使った「ハスの葉シャワー」の展示を行い、好評だった。これについては別報で詳述する。

この時期は冷たい食べ物や飲み物の需要が多くなる。来園者の満足度向上のためには、「夏らしい」メニューを増やすことはぜひ取り組みたい課題である。一方で、園内には自動販売機を何か所か設置して冷たい飲み物の供給はできているが、ソフトクリームやかき氷などの販売箇所がログハウスの1か所しかなく土日には大混雑していた。ログハウスの供給能力の改善や、レストランのメニューの見直しに取り組む必要性を痛感した。